

昭和57年度定期総会開かる

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第17号
昭和57年8月31日 発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農学部内
農芸化学科
振替名古屋9-59345
電話津(0592)32-12
印刷(株)ある

先輩後輩、 膝を交えて懇親

昭和五十七年度の三翠化学会定期総会が、去る五月二十三日午前十一時から津市内の洞津会館で開催された。当日は恩師滝先生を始め、赤木、熊澤両先生のご出席をいただき、会員約五〇名が参集した。

総会にはまず桑原章郎氏(大上)の開会の辞で始まり、同氏の司会のもとで、議長に鈴木幸郎氏(専3)を、議事録記録署名人に田中実氏(大20)を選出した。岡田会長の挨拶ののち、鈴木議長のもとで議事が進められた。まず、昭和五十六年度事業報告



記念写真



総会風景写真



懇親会風景写真

と、盛大な懇親会とすることができた。まず、岡田会長の挨拶、滝先生の首頭取りによる乾杯で始まり、それぞれの先生方のスピーチをいただいた。滝先生のお話は、一日は長く一年は短い悠々自適の様子を、学科主任の熊澤先生は、新卒者の就職状況と、各職場における先輩方の導きに対するお礼とお祝い、赤木先生は趣味のお話について藤村の詩を朗々と吟ぜられた。

つづいて出席会員一人一人の自己紹介にうつり、豊富な経験から読み出た含蓄ある先輩の言葉、はつらつとして希望に燃えた若手の自己紹介とつづき、しんがりを岡田会長がひき受けた。ウィットに富んだ財福のすすめ計画的な基盤づくりなど、心にみる人生訓で最後を締めくくつていただいた。

予定の時間を大幅に超過して会館の係員に催促されながら、遠路ご出席下さった佐野恒平氏(専1)と地元の今西勝氏(専1)のリードで三翠応援歌を斉唱、渋谷明副会長(大4)の首

頭で万歳三唱し、若林長生総会担当理事(専1)による閉会のことばを司会の豊田氏が代理して、午後三時解散した。

この三翠化学会にも、一昨年から、皆様のご協力によりまして基金をもつことができました。この基金は、有効適切に運用されておりまして、ご報告申し上げるとともに、会員皆様方の格別のご理解とご協力のお陰とこの席をかりまして、厚くお礼申し上げます。

ここで総会出席者全員、写真撮影室に集合し、ひな壇に並んで、過去の総会で例のなかったプロによる記念写真を撮ったのち、懇親会の座敷へ移った。懇親会は、大広間にコの字形で列べた膳へ先輩と後輩が入り交じって着き、総会担当理事豊田治男氏(大6)の名司会のもと

本日、ご津市の洞津会館に会総会を開催いたしましたこと、おきまして、本年度の三翠化学会を、遠くは東京、関西大阪と、

はるばる馳せ参じていただき、また恩師滝先生を始め、諸先生方、誠に忙しい中をご臨席賜りまして、盛會裡に開催することができましたことは、誠に同慶の至りでございます。

今や三重大学農学部は、三重高農創立以来、六〇周年を迎えるとともに、同窓生は高農・農専の二七回、大学三〇回と、卒

業年次を重ねてまいりましたこととはご承知の通りであります。この間、我が農芸化学は、戦後の昭和二十一年、農産製造科の創設とともに、隆々として、本年をもって三六周年を迎えまじたりと、ご承知の通りであります。この農芸化学の同窓生で組織する我が三翠化学会は今や会員二千名になんとするに相成りました。これまたご同慶の至りでございます。

会員諸氏におかれましては、実業界に、あるいは官界に、それぞれの重要な地位につかれ、要職を全うされておられるのであります。さらに若い諸君にはそれぞれの職場におかれまして、ご研鑽にいそまれ、相当な業績を挙げておられるやに伺っておりますことも、これまた我が三翠化学会といたしまして、大層慶ばしいことと存じます。

昭和56年度三翠化学会事業報告

S 56年5月10日	会報第14号発行
5月25日	第1回役員・評議員会
5月31日	総会(三翠会館にて)
7月1日	第2回役員・評議員会
12月31日	会報第15号発行
S 57年1月23日	第3回役員・評議員会
3月31日	会報第16号発行

昭和57年度三翠化学会事業計画

S 57年5月17日	第1回役員・評議員会(洞津会館)
5月23日	総会(洞津会館)
7月	第2回役員・評議員会
8月	会報第17号発行
12月	第3回役員・評議員会
S 58年3月	会報第18号発行
3月	第4回役員・評議員会

昭和56年度三翠化学会決算報告

収入の部(単位円)	
前年度繰越	361,080
会費	947,000
雑収入	28,610
計	1336,690
支出の部(単位円)	
会報印刷費(14,15,16号)	577,200
郵送通信費	266,520
振込手数料	14,790
会議費	57,900
人件費	73,990
事務費	38,430
三翠会昭和56年度負担金	30,000
生花及び弔電代	34,810
計	1093,640
差引残高	243,050

昭和57年度三翠化学会予算

収入の部(単位円)	
前年度繰越	243,050
会費	750,000
雑収入	5,000
計	998,050
支出の部(単位円)	
会報印刷費(17,18号)	400,000
郵送通信費	250,000
会議費	100,000
人件費	150,000
事務費	30,000
三翠会昭和57年度負担金	30,000
予備費	38,050
計	998,050

昭和56年度三翠化学会基金会計報告

収入の部(単位円)	
前年度より繰越	2,600,945
利息	57,058
計	2,658,003
支出の部(単位円)	
56年度卒業生記念品(シャープ) とうより(25号)	57,600
57年度新入生歓迎会	30,000
印かん	350
計	117,950
差引残高	2,540,053
資産管理内容(単位円)	
郵便局普通貯金	42,713
郵便局定期貯金	1,900,000
国債	597,340

北岸、奈良両先生 御退官

北岸確三先生(土壤学肥料学)をもって定年御退官されることになりました。北岸先生は昭和三十九年から

十九年間、奈良先生は昭和二十七年から三十一年間の永きに渡って我々を御指導頂きました。両先生とも、今なお学界の重鎮として御活躍中です。

両先生のごこれまでの御功績を記念するとともに永年の御指導に報いるため、現在関係者の間で退官記念事業会の準備委員会が設立され、種々の準備が進められております。いずれ、各退官記念事業会より関係同窓生の皆様に御協力をお願いすることにならうかと思っております。その節は何とぞ、よろしく御協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、各事業会の概要は下記の通りです。

- 《北岸確三先生退官記念事業会》
事務局 津市上浜町 三重大学農学部(土壤学肥料学研究室内)
振替番号 名古屋四一五三三
実行委員 熊澤善三郎、梅林正直、小畑仁
- 《奈良確三先生退官記念事業会》
事務局 津市上浜町 三重大学農学部(農産製造学研究室内)
振替番号 名古屋六一三三七八二
実行委員 熊澤善三郎、飯本義雄、小宮孝志

総説

昭和三十年の国民生活白書は「もう戦後ではない」とうたい日本の社会が貧乏のトンネルを抜け切ったことを告げ、その後、急速な経済成長をもたらした。そして、最近ではしばしば豊かさとは何か問われる時代になった。この間、二十五年余りしか経っていないが、豊かな消費生活の場である家庭がどのような変化を遂げたか、その一部を覗いてみたい。

豊かさの中の家庭生活

大4 澤田寿々太郎

今日の衣生活で、家族のために衣服を縫い上げる主婦がどれほど居るだろうか。ほとんどが規格化された既製衣料品の利用でこと足りる。従って、衣生活のために裁断、縫製の技術を習熟する必要はなくなった。更に衣服整理の知識や技術も不要化してきた。つまり、既製衣料品には防し加工や耐久プレス等の技術サービスが施されている。洗濯やアイロン掛け条件もそれぞれに衣料に標示されている。このように加工食品比率は単に増加しただけでなく、その中身は益々簡便化され、調理技術料をみずから作り出す仕事から解放されてからかなりの年月が経ったが、最近では食事作りさへも他者へ依存する割合が急速に高まってきた。それは、現在の都市世帯において、食費に占める加工食品費が六〇%に達していることからも測り知ること

調理が主婦の不可避的な役割とが言われてきた。一方、便利な家庭電化製品が次々に登場して家事作業が装置化され、苦痛や不快感を伴う労働を代わってくれる。しかも、電化製品の多くは「one touch」と言われる簡単なシンボル操作で仕事を片付けてしまい、主婦の経験や工夫・創造性さえも不要化してしまっただけでなく、主婦の間に急速に増加する機会と時として認められ、家族との交流が深められていく時、それは家族への献身となり、生き甲斐につながっていたのである。更に

早く起き、一日中動き、夜遅くまでつくり物に追いつまわられていたかつての主婦と比べて、どちらが快適であるかは言うまでもない。家事作業の合理化は経験と忍耐によって、家庭を支えるための台所に釘付けになっていた主婦を解放し、人間としての可能性を追求できる機会と時として認められ、家族との交流が深められていく時、それは家族への献身となり、生き甲斐につながっていたのである。更に

母親に起こされ、湯気の立った御飯と、香り高い味噌汁を前にしたかつての子供達の感性はもはや電気釜から立ち上がる湯気の中には見出し難くなった。家事労働が、たとえ苦痛を伴うものであっても、主婦が家族に認められ、家族との交流が深められていく時、それは家族への献身となり、生き甲斐につながっていたのである。更に

家庭の中の一つ一つの仕事や家族との対話のメディアとなつて家族相互の連帯や運命、共同体意識を強める動きをしていた。家事作業の外部化は、かつて家庭の物理的側面が合理化された現代家庭に在る（る）な問題が露呈してきている。一、二の例を挙げてみよう。

再び、コックとスイッチに目を戻すと、経験も工夫も追放してしまつた電化製品の生活では小学生の娘がしつらえた電気釜の御飯も、母親が入れたスイッチで炊き上つた御飯も質の違いが全く無くなったことに気が付く。寒い朝、ひっそりと遠慮勝ちに立ち動き、朝食の仕度を終えたら

いたたけるはずでございました。私たちの驚きと悲しみは、言葉では到底言い表すことができません。神の御理により幽明境を異にしたおとよは、私どもはいつも先生がおそばに居て下さり、お導き下さるものと信じています。石川先生安らかに眠り下さることを祈ります。

恩師石川先生には、病氣入院療養中のところ、去る六月二十日朝、薬石効なく不甯の客となられました。お子様方に聞かれて非常に静かな最期であったと云うかかっております。五十二年春の御退官後一年ぐらいで手術を受けられましたが、その後はすっかり回復されて悠々自適の毎日を送られていました。ただ月に二回は大学病院へ診察のため足を運ばれ、その時には私共も元氣なお姿に接することができました。先生のお宅へ伺った時には、頭の老化を防ぐために

あつたためか、週一回の雑談会や輪談会などは特に厳しく指導していただき、内容を十分に捉えたい時等は翌週初めからやり直すということが再三でありました。この様に教育・研究には厳しかった先生も、一度研究室から出られると、実に優しく、又楽しい先生であられ、例えば、私は初めて麻痺なるものを教えて頂き、先生一流の腕は、と云うては悪いんですが、教室の忘年会等では、かまもにされたものです。あのスリッパでの特徴ある足音に先生が近づいて来られるのを感じて緊張した思い出、またあの高らかな笑い声が私の脳裡に今も残っております。ここに学生時代の思い出を記させて頂きました。先生の御冥福を心からお祈り致します。 大十三回卒 古市幸生 (追悼文)

故石川先生には、その多大な教育研究上の業績に対して、正四位勲三等旭日中綬章の叙勲が決められました。

文芸欄

ユーカーの木

佐々木敏雄(専2)

五台の車

岩田 吉人 先生

稲 転作

岩田 吉人 先生

オランダの規模

岩田 吉人 先生

農芸化学科 近況

○薬冠教官着任 四月一日から薬冠和郎教官を醸酵学講座の助手としてお迎えしました。先生は、東北大学農学部農芸化学科卒業後、同大学院博士課程を終了されたの御着任です。今後の御活躍を期待しております。

○石川先生御逝去 かねてより三重大大学附属病院に入院療養中であられました。去る六月二十日、薬石効なく御永眠されました。行年六十八歳。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

三翠化学会記念事業基金は、本会発足五周年と農芸化学科設置三〇周年を記念して、昭和五十三年九月から募集を開始、会員皆様方の格別のご協力によってその目標額が達成され、昭和五十四年度から基金の運用を開始しております。その運用の内容は、同年度にまず、在学生への応援旗が贈呈され、昭和五十四年度卒業生から、毎年、卒業記念品を贈呈してまいりました。また学生機関誌「こうもり」への補助も昭和五十四年度からおこなわれ、昭和五十六年度からは新入生歓迎会への補助も恒常的な運用としてなされております。

基金の運用に提言を 基金運用委員会へ 昭和五十六年度における会計報告はその資産管理内容とも別に別表の通りであります。この基金は貴重な基金でありますから、その運用については、総会における会長挨拶でもお願いしておりますように、卒直なご意見を各運用委員や事務局までお寄せいただきたいと思います。 なお本年度の基金運用委員会委員は次の通りであります。 委員長/岡田芳次郎(三翠化学)

- 会長(専1) 庶務担当委員/高橋孝雄(大6)、林 真栄(大11) 会計担当委員/嶋田 協(専3)、杉崎 護(大16) 委員/今西 勝(専1)、吉田 弘一(大1)、伊佐 浄(大3)、渋谷 明(大4)、藪本義雄(大4) 会計監事/中川潔彦(専2)、福田 映(大1)

石川先生を偲んで

六月二十日御世界

石川先生におかれましては、六月二十日に御世界され、二十一日に盛大な葬儀が自宅で行われました。ここに、専攻生代表として参列された伊佐浄氏(大3卒)の弔辞と多年の間、研究生活をともにされまし

の先生を偲ぶがとさせていただきます。 先生は、いつものようにその柔和な笑顔で私を迎えて下さり、食品業界のことなど話して下さいました。そのお話を今も耳の中に残して居ります。 それなのに、何故また突然の二月には、同窓会にラッパで

思えば先生は勉学に対してはきびしく私共を導いて下さいました。ともすればなまけ勝ちになる学生に対し、容赦なく落第点を付けられ、無言のうちにもあたたかい愛のムチで学生の本分を教えて下さいました。そんな先生を初めは多くの仲間とお

うらみ申し上げました。しかし二度、三度と追試験を受ける度に先生の御人柄となまけ心を優しく叱つて下さる先生一流の指導方法が理解できるようになったものでした。

先生は、最後にお目にかかったのは確か定年退職で学校を去られるその日でございます。先生は、いつものようにその柔和な笑顔で私を迎えて下さり、食品業界のことなど話して下さいました。そのお話を今も耳の中に残して居ります。 それなのに、何故また突然の二月には、同窓会にラッパで

昭和三十七年六月二十二日 三重大学農学部農芸化学科 第三回卒業生 伊佐 浄 先生(石川先生の葬儀の際に)

追記 故石川先生には、その多大な教育研究上の業績に対して、正四位勲三等旭日中綬章の叙勲が決められました。

この村の牛飼ふ皆が迎へくれし部屋に深より風渡り来る 離ればなれに牛は草食むなだかな斜面を雲の影移り過ぐ 農業に生くる者次つぎ減りぬ乳牛を飼ふ君等を除きて この村に五頭搾乳を奨めしはるかにて今やオランダの規模に今も残っております。

転作の補助金目当のこの水田も飼料作物の成育悪し 収穫の少なな稲の青刈も反五万五千円助成するとぞ 農地とし拓きし区画のままに建ち並ぶるホテル民宿 日本兵かきりなく死に力ガヤンの広野に稲を稔らせて来よ

岩田 吉人 先生

岩田 吉人 先生

昭和56年度果汁協会技術賞

沢田正徳氏(院7)受賞

昭和五十六年度果汁協会技術賞を沢田正徳氏が昨年の六月五日に受賞されました。本賞は、果汁技術の発展に貢献した研究に対し、毎年一件贈られる賞です。ご研究のますますの発展を祈りあげます。

ここに同氏から寄せられた短信用を掲載致します。

私の受賞の対象となりましたのは「温州みかん果実の成長と成分の時季的变化について」と題するものです。みかんの木における八月から十二月の間の果実、及び十二月以降の固い込みの果実について、その果汁の糖度・酸度・N態窒素・パルプ質・ビタミンC・灰分の変化、糖・有機酸・アミノ酸の解析と変化及び果汁のアroma、果皮の精油の変化を調べることに、果実の成長を総合的に調べました。特に香料屋らしくGC、GC-MSを用いてアロマ・精油の成分の同定及び変化を明らかにしたことが大きな要因のようでした。

この受賞も皆様方の御支援によるものです。今後共々よろしくお願い致します。

院15 北川 優

今年、京都薬品工業に入社しました。五月病も乗り越え、ホッとしていたのですが、また新しい病に悩まされている今日このごろです。それは、自分が年老いて死ぬ時に「ア、おれの人生は良かったなあ。」と思えるようにするには、何をすべきかということです。

大30 岩崎 誠二

三重大学の農芸化学の皆さん、お元気ですか。私は今、信州大学の畜産製造学研究室で牛乳タンパクの抗原性の解析をしています。これは平たく言えば、牛乳タンパク分子内で、どの部分

社会人

大30 増田 芳孝

小生、名を増田芳孝と申します。現在、土壌・肥料研究室の院生として大学に残っています。本来なら、小生も社会の一員として仕事をしているわけですが、二年間余計に学生生活を送ることになった次第です。思えば四年間、何事にもものんびりと過ごしてきた小生ですが、この二年間は自分の選んだ道である以上、後悔の残らないものにしたいたいと思

大30 牧 真二

私は、名糖産業の食品開発部で働いております。開発部と言えは聞こえは良いですが、実際は、開発や品質管理ばかりでなく、雑用が多々あり、雑用部といった感じがします。それに、開発

大30 河村 龍二郎

大学院(食品化学研究室)に入學して、もう四月がすぎました。入学して、もう四月がすぎたが、専攻生のめんどうもろくにみられず、ましてや自分の

年 生

部というものは、あまり重要視されていません。会社は金もうけが目的ですから直接利益と結びつかない開発業務というのは、軽んぜられるのは当然かもしれない。こう書くと、つまらない職場のように感じるでしょうが、良い商品を作り、管理するという仕事ですから責任が重くやりがいい仕事だと思っております。

院15 錦見 喜夫

六年間の学生生活を終え、鈴鹿の薬品会社に勤めています。学生時代には「どうせ同じような実験を行うなら、早く金をもらって仕事をしたい」と考えていました。しかしながら、いざ

大30 佐藤 郁夫

「今、あなたは何年生ですか。」という問いに対し、「大学院一年です。」と答える。この「大学院生」という響きは、私の実体を知らない人にとっては相当学識

大30 友田 善久

現在、京都大学大学院農学研究所食品工学専攻、農産製造学研究室M1。

大30 柳瀬 茂樹

私は新入社員で柳瀬です。この三月、卒業式も終わらないうちに、ここ知多市にあるサンク

大30 浅野 一郎

今年大学を卒業して、現在、京都大学食糧科学研究所食品分析部門、通称松下研の修士1年生です。この松下研の研究テーマは、ガスマス(GCM)・高速液クロ(HPLC)・ガス

大30 山田 恵一郎

今年三月に、四年間親しんだ大学を卒業し、社会人一年生となりました。私は地元の太陽化学KKに青山君と二人就職し、当初は研究室に入る予定でしたが、都合により香料部に移り、現在は香料の勉強をしながら、もっぱらフルーツ加工品の生産にあたりております。しかしながら、失敗ばかりを繰り返して、大学生

会費納入

のお願い

昭和五十七年度までの会費を未納の方は是非御納入頂きますようお願い致します。現在、昭和五十七年度会費の納入率は五〇%をわずかに越えた状態にあります。本会は一〇〇%納入頂いてようやく最低の活動が維持できる状態にあり、今回お配りした三

ないですが、自分としては希望通りの職に就けたわけですが、この先、少しでも生活環境、自然環境がよくなるよう、仕事をがんばってやっていきたいと思

職場紹介

り、各種試験検査分析の業務を行ってあります。

太陽化学株式会社

先日(七月十四日)、三翠化学会会報担当理事の嶋林先生から「三翠化学」第十七号に職場紹介の記事を載せるので七月三十一日まで原稿用紙四〜五枚にまとめて書くように……とお手紙をいただきました。さて、どうもギリギリにならないとやらないで済むまいと思っております。

さて前置きが長くなりましたが、本題に移させていただきます。私の勤務いたします太陽化学株式会社は三重県四日市市に本社・工場・研究所をもちます。食品・化粧品用添加剤ならびに食品原料、医薬品原料の製造・販売を行う会社で他に観光事業部として湯の山に政府登録国際観光旅館グランドホテル向陽があります。又、関連会社として、東京に食品・化粧品・医薬品・化粧品等とその原料・添加物の販売を目的とする株式会社……森水乳業株式会社と当社(サンフレンドケミカル株式会社)の合併会社)があり、更に当社本社工場敷地内には昭和五十四年八月に設立された厚生大臣指定検査機関「財団法人三重大食品分析開発センター」が

ガム、ローカストビーンガム、キサンタンガム等の植物、微生物の生産する粘多糖類)を組み合わせた冷菓用安定剤、デザート用安定剤の他に水産肉練製品(品質改良剤として乳清たん白あるいは血漿たん白製剤、カゼインナトリウム製剤(昭和四十年にエクストリジョン法によるカゼインナトリウムの連続製造法を開発)を製造しており、ユーザーのニーズに即対応するためハード・ソフト両面での開発研究に力を入れております。昭和三十三年には太陽フード株式会社を設立し、鶏卵加工製品の研究を我が国ではじめて企業化し、全卵粉末、卵白粉末等各種加工製品の生産を開始しました。その後、鶏卵加工に関する研究を我々が初めて企業化し、全卵粉末、卵白粉末等各種加工製品の生産を開始しました。その後、鶏卵加工に関する研究を我々が初めて企業化し、全卵粉末、卵白粉末等各種加工製品の生産を開始しました。

渡辺基行(化二二)：技術部係長、安定剤部門担当、前川重樹(化二九)：研究所、食品加工担当、青山伸彦(化三〇)：研究所、食品加工担当、山田恵一郎(化三〇)：製造部、香料部門担当、西元勝也(化一四)：研究所課長、医薬品部門担当。

京都薬品工業株式会社

この度、三翠化学より私の勤務しております京都薬品工業を紹介してほしいという依頼を受け、額に汗ならぬ油汗を浮かべながら、何年ぶりで筆を取りました。

京都薬品工業は古くからの製薬会社が多く、大阪、奈良、滋賀の各県に有名ですが、これらに接する京都には製薬会社が少なく、都にはないかという気さへします。その中で、わが社は昭和二十一年に医薬品会社を起し、今年で三十六周年を迎え、今後医薬品向医薬品の研究開発、製造を中心に中堅製薬メーカーへの独自の道を歩むべ

おり、近々明るい話題が提供出来るものと思ひます。とは言っても、現在は活力と機動力のみが売りものの従業員百八程度の中小企業であります。知識技術集約型産業と言われる医薬品業界にあって、新薬の創製を中心とした過去の実績と経験をいかして、今後の社会に対応出来る独自の医薬品を世に送り出したこと、なによりかまわず努力し続けなければならないと言ふのが現実です。この中において、わが三重大化学科出身者が全員が研究開発部に所属し、その中心的な存在としての役割を十分に果たしてきましたが、今年度、久しぶりに卒業生を迎え、我々先輩連中も、うかうかして、おれなれない、さらに気を引き締めています。そこで現在活躍中の卒業生を紹介したいと思います。

北川 優(大二十八回) 久々の卒業生、期待のホープ。

北川 優(大二十八回) 久々の卒業生、期待のホープ。情報部の海に漂う男一匹。

専2回卒業 三十周年記念

専2回卒業 三十周年記念 藤山寛之諸君の企画により、大阪府池田市の不死王閣で卒業後三十周年を記念とし、盛大に開催した。

ご連絡を お願いします

ご連絡を お願いします 次の方員諸氏の住所、勤務先同所在地を事務局では適確に把握しております。会報、その他同窓会の種々の連絡を完璧にしたいと思ひますので、級友・友人をはじめ御存知の方は事務局まで連絡ください。事務局 大24 寺坂 清

原稿募集

会報「三翠化学」の充実をはかり、会員相互の連携・情報交換をより緊密にするため、原稿を募集しております。どんな原稿でも大歓迎です。どしどし、自由に投稿して下さい。「三翠化学」を情報交換の場として活用して下さい。

大13回卒業 金鯱荘で歓談

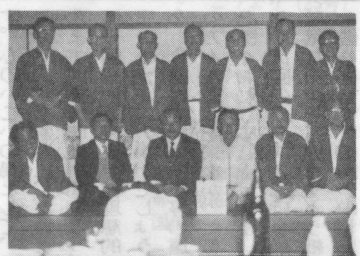
大十三回卒業クラス会は正月二日、庄山正敏氏を幹事として蟹江の金鯱荘でもたれました。在学時はクラス担任として、入学時の単位取り方から始めて就職の世話やら果ては取得単位スレスレの卒業の面倒まで見ていただき、卒業後の今もいろいろと相談のついでにたいいている奈良先生も元気なお顔を見せられました。出席者は十五名であつた。昭和四十年の卒業以来、ほぼ二十五年を経ているが、学生時代に戻り、奈良先生を囲んで、思い出話や近況に歓談の時を過ごした。頭の淋しくなつた者、白くなった者、さまざまではあるが、若々しさの中に社会の中堅として活躍しているという自信が感じられた。奈良先生が来春御定年を迎えられるということもあり、次回からは来年という事になった。幹事は筆者の予定である。次回も盛大にやりたいものである。(古市記)

クラス会 だより

専2回卒業 三十周年記念 藤山寛之諸君の企画により、大阪府池田市の不死王閣で卒業後三十周年を記念とし、盛大に開催した。出席者は、幹事のほかに海上正也、近藤貞雄、砂野正、佐々木敏雄、十川省治、竹内誠、中西孝文、新良貞雄、吉田誠之の計十三名の面々。当日出席の手筈であつた幹事格の佐藤紀志君がやむなき事情突発のため欠席されたこと、三重県勢の多くが諸事情で参加されなかったため、いささか少数となつたこと、残念ではあつた。しかし、元氣旺盛なメンバーのごとで「みんな、ええおっちゃんになつたなあ」から始まり、学生時代の「イモ畑事件」、「木彫りの麻雀牌」、「欠点の教科対策」などなど……、懐旧快談にふけり、幹事が宴の「おひらき」を言い出すチャンスがないう程に楽しい一夜を明した。翌朝、優雅な紳士一同にびつたりの箕面府立公園、勝尾寺での紅葉狩りを楽しみ、次会昭和六十年(卒業後三十五周年)に開催予定の中京でのかいこうを願ひます。

ご連絡を お願いします

次の方員諸氏の住所、勤務先同所在地を事務局では適確に把握しております。会報、その他同窓会の種々の連絡を完璧にしたいと思ひますので、級友・友人をはじめ御存知の方は事務局まで連絡ください。事務局 大24 寺坂 清



約しつつ、幹事の特別の計らいで頂いたアルバムを手手に散会した。 忽ちゆき三十年と語りつつ 不死王の湯に俱に浸りぬ 三十年経て集いたる一夜明け 紅葉づる溪に別れゆくなり (佐々木記)

関東支部総会開かる

あちこちに和やかな歓談の花



春爛漫の四月二日(金)午後六時八時、東京は副都心新宿の超高層ビルの一、三井ビル五十四階、レストラン「メヌエ」において、三翠化学会関東支部総会(会長→長瀬和雄)が行われた。

関東支部総会は、先生方の多数の御参加を仰ぐため、東京で農芸化学会が行われるに期を合わせて行なうことを恒例としており、今回(昭和五十四年四月、幹事大9卒)に引き続き、三年ぶりに開催されたもの。

一口に関東支部といっても、その版図は、静岡、長野、栃木、群馬、茨城の諸県に及ぶが、会員数はその割には少なく二〇〇名足らずである。

一年中で、最も多忙な年度末にもかわらず、その内四七名が集い、岩本先生、熊沢先生、赤木先生、小宮先生、嶋林先生、高橋先生、奈良先生、古市先生、前田先生、藪本先生の十一名の先生方の御参加を得て、懐かしい歓談のひとときを過ごした。

地上二〇〇名に位置する会場

三翠会三重県支部

連絡協議会総会開かる

三翠化学会が加入している、三翠会三重県支部連絡協議会定例の本年度総会が去る八月七日午後二時から農学部大講義室で開催された。

当日は農学部部長森邦男氏・三重県知事田川亮三氏(農15)・衆議院議員角谷堅次郎氏(土14)をはじめ、我が三翠化学会、三翠農学会(農学部と総合農学部、農業機械学科卒業生を含む)、志登茂会(農業土木学科)、三重県学会の三重県在任、勤務者一五〇余名が出席した。

総会議事のうち、各学科同窓会の情報交換では、渉谷副会長により三翠化学会の活動状況が報告された。

三翠会だより

名簿申込みを

今年、農学部同窓会であり、また三翠会の名簿発行の年に当たります。各幹事ならびに三翠会事務局では、日頃より名簿内容の正確を期す様努力しておりますが、今夏夏休みを返上してラストパートに入っています。会員各位におかれましては幸甚です。

大1回卒業

伊勢に集う

我々のクラスはほとんど毎年のように何らかの理由づけをして同窓会を実施している。本年は「田中庄助先生の追悼」ということで二月二十一日、伊勢市佐八町に新設された間が三翠化学会の万年役員として頑張っている福田映君である。出席者は東海支部総会と重なったため、十四名であったが、恩師田中先生のお導きがあったか、卒業後初めて参加した学友が目立った。まず、出席者を写真で紹介しよう。前列右から三重県北勢公設地方卸売市場長・水谷、牛虎社長・清水、江南女子短大教授・前田、中利産業社長・中野、行政管理局統計主任・林、後列右から庄野殿研究場長・岡本、白井松新薬研究開発部長・西川、飯南高校長・原田、ヤマモリ食品資材課長・服部、筆者(松阪大学・吉田)盛

専1回卒業

三十二年目の再会

五十七年度三翠化学会総会の前夜祭として卒業後三十三年のクラス会をやろうとの話が出たのが総会のわずか前、ハガキ通信は間に合わず、電話連絡で五月二十二日午後六時、津新町の平治へたちまちクラスの半数が顔を揃え、それなら是非「同封のけがき」は振替用紙では非会員名簿の予約申し込みをしていただきます様ご案内致します。十一月二十五日頃にはお届け出来る予定です。尚、三翠化学会独自の名簿発行は現在所考しております。三翠会名簿を購入の上、ご利用いただけたいです。幸甚です。

大15回卒業

一月二日に開催

久しぶりに我々大十五回卒業生のクラス会が開催されたのは一月三日である。級友は三十七、八歳。あらゆる面で最も忙しい年齢に達しているといふことで泊りがけはよしと全員休職中である。学生時代から多士済々のクラスであったが、今なおその名残が残っている。パン屋、菓

クラス会だより

春、敗戦の日からわずか半年余り日本中混沌、濃酽殆どどの都市は焼け野原で誰れもが空腹をかかえていた時、逸早く新設された農産製造科はイメージが極めて良く、当時としては最も貴重な食品をつくる学科ということで人気抜群、今日の医学部人気が比べべくもなく、俊秀雲のごとく集い、二十倍を越す難関を突破して集まった我々のクラスは、陸士、海兵、陸幼、予科練等軍関係のビリッとしたイキのよいのが半数を占め、その他旧制高校に折角、入学しながら空襲が身にしてみても、食品加工の魅力に引かれて転身して来た者も多数あって、多士済々、年令もまちまちで現在の共通一次では考えられないユニークさで

大15回卒業

一月二日に開催

兄は帰宅したが、その他面々は一室に集って、二次会となる。閑静で清らかな外宮の真山に位置するだけに市内に出ることもできず、まことに優等生的で、タルムとスルメイカだけの談笑が尽きない。甘党には井村屋の洋菓子も忘れられない。特に久方振りの出合いとなった林、中野、高橋の諸兄を中心に話がはずむ。中野兄らによる寮生時代の農場からのサツマイモ、果

クラス会だより

を心からお祈りしました。つづいて、福田幹事から本会開催の経緯と挨拶のあと乾杯。そして自己紹介が延々と続く。美声を聞く暇もなかった。現況と家族構成についての話が中心であったが、学窓を築立って三十年余の年輪を経ると、豊かな人生経験と巾広い人間関係の貴重さがにじみ出て、時の立つのを忘れさせる。

夜も更け、公務の関係で原田

クラス会だより

六時に世話役のあいさつがあり宴に入りしました。今回は卒業後三十二年ぶりに集って出席した者も居りましたが、一見してたちまち顔と名前が一致し、誰れもひとりとしてみても驚かされる者なかつたのは、さすがでありました。東京、横浜、大阪、等遠方からの参加もあって談論、風流、杯を交わしてなかなかひとときを過ぎ、親友を会場まで送って来た娘夫婦を全員に紹介する者もあって、クラス会は年輪を経てゆめもどき感じました。思い出せば三十六年前

クラス会だより

実の失敗談は食糧難であった戦後の思い出のこまを彷彿とさせた。翌朝、解散となったが、お互いに結ばれたはずなほ固く、大部分の級友は車に分乗して伊勢神宮に参拝。赤福本舗の縁側で舌鼓を打った後、牛虎推薦の料亭で昼食、三次会となる。予定の時間を大巾に超過したが、名残りを惜しみながら再会を約して解散した。(吉田記)

次回は三年後に、農製出身者の幹事で開催しようということになり、再会を約して夕刻、散会したのであるが、とりあえずの連絡先は新たに大学を出れないでいる小畑がやることになった。十五回卒業の皆さん、住所等の変更があった時は大学まで連絡を。(小畑記)

学総会には約半数の一〇名が出席し、二日にわたってのアルコール添加となりました。特別参加で会を楽しくしていただきました専二の皆様と奥山さんに厚く御礼申し上げます。これから歳月を経るほどに遠からず、心はいかしの場として、益々クラス会を盛んにしたいと考えています。充分準備期間をとって一年一回泊で行えば理想的だと思いますが、いかがでしょうか？ 今後は沖繩、広島等の遠方の方々に通知出来なかつたことを深くおわび申し上げます。どうか次回のクラス会には全員元気な顔がそろいますよう紙面を借りまして、御願い申し上げます。

▽出席者△
(専一) 嶋林、岡田、長谷川、羽見、若林、本根、松村、岡、藤田、東、松林、佐野、別府、杉浦、西村、豊田、芝田、今西、渡辺
(専二) 十川、中川、佐々木(順序不同)(今西・渡辺記)